

教室のICT環境整備

～より教えやすく、よりわかりやすい授業のために～

今なぜICT活用？

「情報通信技術（ICT）を効果的に活用した、分かりやすく深まる授業の実現」*が求められています。まずは実物投影機の活用が主になります。*文部科学省「教育の情報化ビジョン」

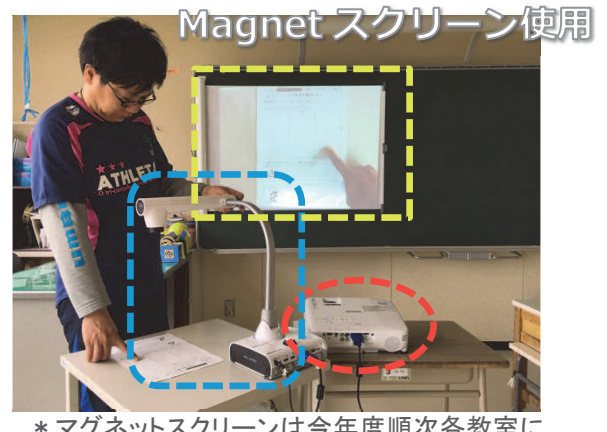
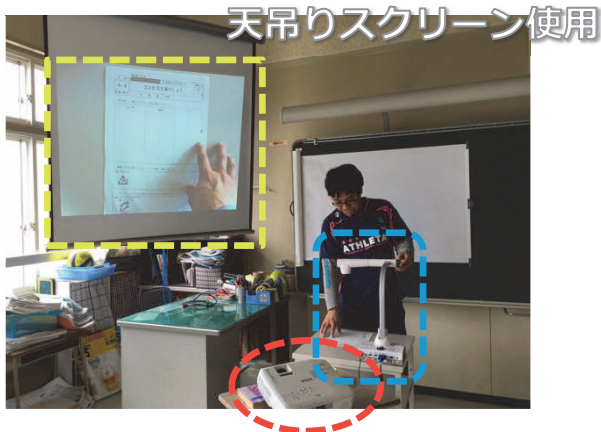
情報機器＜情報そのもの

「機器をどう使うか？」で悩む必要はありません。「何を見せるのか？」で悩みましょう。これまでの授業づくりをちょっと便利にするだけの道具でしかありません。

環境＝いつでも使えること

黒板は常設されています。いつでも使える状態になければならないからです。ICTも同様です。すぐ使える常設環境であることが、授業の細かな部分で効いてきます。

実物投影機 + **プロジェクター** + **スクリーン** を教室に常設する



基本型

* マグネットスクリーンは今年度順次各教室に配備される予定です。

無理のない立ち位置

- ・ 「四分六」の構えで、児童に視線を向けながら操作できる立ち位置を決めます。
- ・ 実物投影機台は、使いやすい立ち位置に合わせて移動させて構いません。
- ・ 児童が使用する際にわかりやすいよう、床に足跡マークなどをつけると良い。

外光や室内灯の明かり対策

- ・ 外光がスクリーンに当たる場合、前カーテンで調節します。（午前、冬季）
- ・ 黒板用蛍光灯のうち、スクリーン直上の部分を画用紙で隠すと見易い。

原稿を置く位置を把握

- ・ 原稿の位置合わせに時間をかけないようにします。
- ・ 台上に教科書やプリントサイズに合わせた目印をつけると良い。（～A3）

配線の処理で事故防止

- ・ 電源、映像の線が床を這い危険です。結束してまとめます。
- ・ 電源は延長コードを使ってください。

例：Magnet スクリーン使用時

投影サイズは大きく

- ・ 映像サイズはスクリーン横幅いっぱいに合わせてます。
- ・ プロジェクターの位置を前後させると映像サイズが変わります。

プロジェクタ位置は固定

- ・ いつでも同じ位置に投影されるように、プロジェクタ（台）の位置は固定します。
- ・ 床に目印をつけると良い。

